

令和6年度 第1回南長浜地域まちづくり共創会議 要点録

I 日 時 令和6年10月4日（金）14時00分～15時45分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 仁連 孝昭委員（委員長） 岩崎 博論委員（副委員長）
中尾 元重委員 片山 郁夫委員 伊藤 義弘委員
西川 満委員 茂森 利洋委員 中川 英治委員
松本 秀章委員 川崎 他家廣委員 小川 暢保委員
速水 茂喜委員

【オブザーバー】橋本 典子議員

【長浜市】浅見宣義市長

【事務局】未来創造部 中嶋部長、村崎次長

政策デザイン課 手崎課長、服部課長代理、橘副参事

商工振興課 坪井副参事

都市計画課 中村係長、松橋主査

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 市長あいさつ

市 長 あいさつ

3 新人委員自己紹介

委 員 新しい委員になられた方からあいさつ（片山、茂森、中川、速水委員）

4 滋賀文教短期大学から現況説明

学 長 現況と今後について説明

5 委員長あいさつ

委 員 長 あいさつ

6 検討会議等による検討経過について説明

事 務 局 会議資料に基づき説明

7 意見交換

岩寄委員

検討会議は、まだ議論の途中。3つの部会で分かれてワークショップ形式で行っており、年度末に向けてまとめていく形になる。

全体コンセプトの前提として、役所の部局別に分かれる検討もあるが、色んな領域を横断することで南長浜の可能性を広げるということもあり、ゲートウェイ、インキュベーション、ライフスタイルの3つの部会にした。

※岩寄委員は検討会議の委員長

仁連委員長

高齢化、大学の機能が縮小せざるを得ない状況も生まれている中で、この地域の中の力だけでは、前に引っ張っていくことは難しい状況。工業団地の誘致をこの地域で考えられているが、それに限らず、もっと外部からポテンシャルを組み込んでいくようなビジョンが必要と思うがそれを検討するのはインキュベーション部会か。

岩寄委員

ゲートウェイも積極的に議論されている。ゾーニングが議論されているが、田村駅周辺が内外交流ゾーンとなっており、市外と市内の人が交わる場所になると思う。市場の大屋根（軒下）を使ってというアイデアもあった。

茂森委員

神田地域でもどういう動きにしていっていいか検討している。空き家・空地の問題が議論に上がっており、今後、南長浜の人口がどうなるか、検討があれば教えてもらいたい。

事務局

南長浜の人口の今後の見通しとして、明確な目標値は定めているわけではないが、このままでは人口がますます減っていくと考えている。昨年度データも示したが若い世代の転出が課題。そこをいかに改善するか。そこにメスを入れられるのが南長浜と思っている。若い人を中心に人、モノを集積させていくとコンセプトにも謳っている。どうして行くかは議論するが、爆発的に人口が増えるのは現実的でない。

仁連委員長

田村駅周辺でも若い人が集う場所がない。ドームを出ても何もない。今のままでイベントをしても人が集まるかどうかよくわからない気がする。これまでもバイオ大や文教短大等の学生がイベントをやったがその総括はできているのか。

事務局

市として総括は十分できていない。学生と地域や市との接点が少なく見えてなかった。大切な視点であるので、押さえておきたい。

松本委員

検討会議のアイデアは興味深く素敵。町の未来は素敵だが、住む人の未来を考えるともっと子育て世代にフォーカスしてもよいと思う。

岩寄委員

子育て世帯への議論はされている。ペルソナ※の中にもいる。夫婦共働き、外から移住した子育てファミリーなど、多様に議論している。ライフスタイル部会で、都会ではない自然と共生する新しい子育てが、長野など子育て移住がある地域でみられるので、長浜もそうなれ

ばよいと思い議論している。

※ペルソナ：未来の市民像

中尾委員

まちづくりセンターで子育て活動している。小学生がたくさん遊びに来る状況。公的な施設としてそういう機能を持っている。まちづくりセンターは本来南長浜のことを考えれば田村駅近辺にあったほうが良いという意見もある。さざなみタウンと交流センターは近接しており、交流センターを建て替えるなら、南長浜に再配置を考えてはどうか。まちづくりセンターの位置付けも入れてもらえるとありがたい。文教短大から絵本の読み聞かせに来てもらった。閉校は苦しい、悲しい状況。

事務局

今後についても、地域の団体と一緒に考えていきたい。

小川委員

南長浜地域での大きな話題は、神田SICを核としたまちづくり。もう1つは田村駅。早くから駅を改築して大きなまちづくりをしようと投げかけをしていたが、進まなかった。今、少しずつロータリーなど進んでいる。みんなが注目しているなかで、大学・産業振興の拠点としてとらえて、ここから産業を広げていく発想が必要。

インキュベーション部会、産業振興を目的とした部会の意見を入れてもらっているのは評価する。産業振興は長浜単独ではできない。この1年で大きな流れができた。それは、米原駅東口が四半世紀ぶりに動いたこと。長浜を拠点とした湖北工業、日本ソフト開発が中心となっている。地域にとって一番明るい話題。米原との連携もあるし、もっと大きい連携もある。地方創生のためには各地に産業クラスターが必要と言われている。長浜も早くからバイオ大学など誘致し、ベンチャー企業も時々生まれている。小さい話だがそれらが核になって産業が生まれていく。国の知恵、県の知恵、市の知恵を総合的に発揮しないと。米原との連携やさらに広い視野が必要と思う。市としてどうとらえて取り組んでいくのか。

中川委員

委員の言う通り。田村駅周辺をどうしていくかを検討して、いまロータリーを直すだけに留まっている。コロナなどで止まっている。産業と駅が担当部署別々で、一緒にやろうというニュアンスを受け取れない。産業団地が決まれば、駅や街路計画をしていくという感じで市としての一体感が見られないがどうするか。神田SICは道路担当部署は接続だけと。

神田のまちづくりをどうしていくか。神田の人口は減っている。外に出て行って帰ってこようとしなない。住宅ゾーンとしているが、集落内は全部いわゆる2項道路で狭い。家が建てられない。分家を建てようとする地形的に建てられない。人口も増えないなか、住んでいた人を呼び戻すということをしなければいけないが、市街化区域内は満杯

で拡大はできない。商業地域か工業地域しか拡大できないと認識している。いい発想はされているがつながりができていない。一体的なまちづくりをしてもらいたい。

事務局

都市計画マスタープランが延び延びになっている。このビジョンが決まらなければマスタープランもできないとしている。産業誘致も県と連携しながらやっていかないと高島にとられるような気がしている。それぞれの部署でそれぞれの業務を担当しているのは事実。ビジョンは政策デザイン課でやっているが、関係課と情報共有しながら具体的に議論をしている状況にある。組織としては別だが、地元からの意見についても注目して合同で協議している。

具体的にはS I Cからの接続道路も産業団地を考慮して変更になった。まだ足りない部分はあるかもしれないが連動させていきたい。個別の規制もあると思う。ビジョンでは個別の集落まで触れることはできないが、一定この地域をどうしていくか合意が取れたらそれに向かってやっていくことになる。

細かなことは時々の個別計画にゆだねる。産業団地も他の市とも連携している。県とも連携している。全国的には企業の国内回帰の動きもある。海外から戻ってくる企業の受け皿にもなりうる。市単独でやるわけではないし、バイオ大学も理系人材の育成の場として検討いただいている。

市長

産業振興は長浜単独ではできない。外の企業にも協力願うのが今回のコンセプト。まだ共創パートナー企業は6社だが増やしていきたい。バイオ大学の協力も必要。製薬関係や生命科学分野の企業、それに加えて地元も含めた製造業と大学と協力して、南長浜の発展に寄与できれば。「開かれたシビックプライド」として外の力も引き入れてまちの魅力を高めていく。地元企業も含めて、たくさんの企業が来てほしい。一体的な計画の推進については、駅の改修や土地の開発に取り組みつつ、農地の土地改良事業などがあり、開発を進めれば農地保全で止まるということもあった。市長、副市長などがグリップして進める必要があると痛感した。まだまだできていないと思うところがあるが、都市計画マスタープランや立地適正化計画などに反映するように指示している。決してバラバラにやっているわけではなく有機的な連携をしている。産業立地も他の候補地があったが、米原市とも協力して一体的なまちづくりとして進めるために南長浜にした。他の地域に持っていくと力が分散し、若い人が集まるまちが作れない。グリップしながらやっていきたいのでご理解願いたい。

小川委員

米原と連携しての産業誘致は大きく評価する。長浜に世界的な企業がくればよいと思う。

- 事務局 長浜のことを考えてやっていきたい。
- 市長 部長も副市長も長浜に住んでくれている。長浜を好きになってくれる職員が増えたり、出向いただいた人も、帰任された後も関係性を作って、全国に長浜の支店長がいるようにしたい。
- 中尾委員 今後、南長浜の開発はどのような主体が進めていくのか。市が直営でやるのも1つの案だが、開かれたシビックプライドで考えると、第3セクターにしてもらって、米原も入ってもらって、主体となりうるともっと熱が入るのではないか。そういう時期に入ってきていると感じる。
- 市長 そういう視点も必要と思う。今回、産業団地の開発も様々な声がある。市が主体となると遅くなることもあり、逆に民間が主体になると早い場合もある。3セクとなると県や米原市も入ると思うが、公の肩代わりになり時間もかかると思う。民間企業による投資開発の方が早く、これを一番に進めることを考えている。
- 伊藤委員 産業団地については県の候補地として認められるよう最大限の尽力をしてほしい。地元民としてもそこに作ってほしいと思っている。S I Cができることになり、地元でもどういったまちづくりをするのか議論を重ねてきていた。S I Cだけでは何も変わらない、という意見を聞く。産業用地が決まれば第2の起爆剤として大いにまちづくりに貢献してくれるだろうという思いをしている。
- 中川委員 取り組みアイデアについて、南長浜というとイメージされるのが琵琶湖周辺の活用。案の中にも田村駅・琵琶湖沿いが多くて当然だが、神田、西黒田もある。そういったところもまちづくりについて一生懸命考えている。神田溜も写真家が選ぶ桜百選に選ばれている。そういういいところも多々ある。
- 事務局 今後のまちづくりのビジョンで北九州市を挙げている。地域が3つあってどうしていくかというイメージ図。これを長浜に当てはめた場合、ゾーンがいろいろと重なってくると思うが、区画をどうするのか等、どう考えているのか。
- 岩寄委員 検討中であるが、どういうゾーンわけができるのかどんどん出してもらってまとめることになる。重なるエリアもあるだろうし、特化するゾーンも出ると思う。パートナー企業の投資もあるだろうし。産業エリアだけでなく色んな考え方があろうと思う。
- 岩寄委員 交通利便性が高いが自然環境が豊か。産業団地が来ることで多様性がより深まる。それを生かしたビジョンづくりをしたい。

仁連委員長

3つの部会を作っていることが重要。産業の誘致によって発展へのエンジンにしようというのが明確になった。インキュベーション部会で議論されていると思う。産業が発展するには、そこで働く人をいかに集めるか。集まらないところには産業は立地しない。これまでは労働者の居住環境はあまり考えてこなかった。これからは大事。相乗効果を持たせると素晴らしい地域になる。

居住を考える上で、自然の豊かさというのはある。文化教育面は非常に大事。これがちょっとこの地域は弱い。せっかく文教短大が来ているのに閉めざるを得ない。今後どうしていくのかみんな考えていきたい。農業も頑張っていかなければならない。特に産業振興、企業を誘致していく条件が生まれてきたかと思うので、うまく前に進めていかないといけない。

20ページのロードマップを見ると、個々の要素はあるが、これが全然つながっていなかった。お互いの力を合わせて相乗効果を生むようなことが大事ではないか。

川崎委員

県で市場審議会が毎年開催されている。県内では4市場があるが、15年前に県下では2市場で良いという意見が出ていた。南北1市場ずつ。彦根・東近江と一本化を検討し、意見交換したが実らなかった。長浜の卸売市場が移転したらどうかという話があった。現状の卸売市場の取扱高はH4～5年頃の約90億から約30億になった。彦根市場は約8億。統合してもよいが、まずは行政で検討願えれば。国県市の支援が必要で、仮に2市場が統合となれば支援はもらえると思う。長浜の市場はH2にオープン。夏祭りを毎年開催していた。5～6千人の来場者があったが近年は開催できていない。他にも小中学校の体験学習のほか、料理教室や親子見学会、まちづくりセンターとも連携し、市場のPRはしている。

ただ老朽化が進んでおり、将来的な在り方を担当課と共に検討している。34年経過したが、建物自体の耐震性は残っており、10～20年は持つ。一方で雨漏り等がしており保全が必要。

松本委員

10月26、27日に文教短期大学の学園祭がある。バイオ大学と別々に開催していたが、学生自らがバイオ大学と一緒にやったらどうかと。大学連携の事業の成果だと思う。26日は文教の学生がバイオ大学に行く。27日はバイオ大学単独で実施。この件でバイオ大学の学生と議論していて良い雰囲気があり、田村駅周辺に学生たちが気軽に集まれるそういう場があればよいと思う。ビジョンを達成するのは時間がかかる。短期的にでもバイオ大学と田村駅を盛り上げることは大事と思う。協力はしていくので、引き続き支援をお願いしたい。

事務局

ゾーニング、アイデアを紹介させてもらったが、今までの検討と違って、駅の周辺に人がどう集まっていくか、それでどう大学生が増えるか、乗降客数が増えるか、駅の改修につながるかというのがちりばめられている。人が集まることで周辺が変わっていく。最初は細かい単発のところを積み上げるが、大きなところを目指しているということを理解願いたい。

西川委員

市街化調整区域は民間、個人では開発できないのが実情。神田、米原で産業用地が進んできた。大きなインパクト、それに合わせて、西黒田地域もカバーしてもらえないか。将来の南長浜の姿が見えてきたような気がする。2月になったらさらに進めてもらいたい。S I C周辺の地域を開発というより、経済特区を設けてもらいたい。産業用地は滋賀県が特区を設けると思うが市も独自にやってもらえないか。ぜひ実現してもらいたい。

8 今後のスケジュールについて説明

事務局 ・次回2月の会議で、検討会議の協議内容を踏まえた結果を報告させていただきます。

9 閉会

以上